

## 3.1 オオフサモ【特定外来生物】



### ★対策のポイント★

#### ▶根ごと除去

地上部だけを除去しても、栄養繁殖<sup>p.227</sup>で解説により残存した植物体（根を含む）から再生

#### ▶発見したらすぐ除去

増殖速度がとても速いため、発見したら根ごと除去

増殖すると除去に要する労力が増えてしまう

#### ▶拡散の防止が重要

植物断片からも再生する

ちぎれた断片を拡散させないためにオイルフェンス等を設置

土壌中の植物断片を広げないために駆除に用いた道具へ付着した土は水で洗浄し植物断片を残さない

#### ▶適正な処分が重要

外来生物法に基づいた処分が必要（1.6.5を参照）

駆除後はアスファルト上等乾いた場所に置き完全に枯死させる

#### ▶継続的な駆除・定期的な確認が重要

除去し損ねた植物断片から再生する恐れがあるため1回の駆除ではなく根気強く継続的に実施

駆除後も再生の有無を定期的にモニタリング

#### ▶地上部が衰弱している時期の除去

地上部が衰弱している冬季（12月～3月、特に1、2月）に駆除を実施

#### ▶地上部が衰弱しない場合は地下部の養分が減少した時期の除去

4-6月（特に5-6月）に駆除を実施（春から夏にかけて地下部に蓄えた養分で成長）

#### ▶日本では種子をつけないので種子繁殖のおそれはない

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生活史	越冬				開花							越冬
	地下茎等によるクローン生長											
駆除推奨時期	抜き取りや剥ぎ取り											

図 16 オオフサモの生活史と駆除スケジュール（生育する地域や環境により異なることがある）

### 3.1.1 生態・見分け方

#### 【概要】

オオフサモ (*Myriophyllum aquaticum*) は南アメリカ原産の多年生<sup>p.227で解説</sup>の抽水植物<sup>p.227で解説</sup>である<sup>1)</sup>。日本では特定外来生物、日本の侵略的外来種ワースト 100<sup>p.225で解説</sup>に指定されている<sup>2)</sup>。

日本においては、1920年ごろドイツ人が持参し、兵庫県須磨寺の池に野生化した<sup>3)</sup>。令和5年1月現在、ほぼ全国（青森県、岩手県、秋田県、福島県、新潟県、石川県では未確認）に分布している<sup>3)</sup>。

雌雄異株であるが日本国内に定着しているのは雌株のみであるため、種子繁殖はしないが、栄養繁殖が旺盛で地下茎で繁殖する<sup>3)</sup>。主に根茎で越冬するが、九州では地上部も完全に枯死することなく越冬する<sup>3)</sup>。

表 10 オオフサモの生態情報

項目	情報
和名	オオフサモ
学名	<i>Myriophyllum aquaticum</i>
英名	Parrot' s Feather, Water-Feather, Brazilian watermilfoil
分類	維管束植物 双子葉・離弁花類 アリノトウグサ科
基礎情報	湖沼やため池、河川、水路等に群生する多年生の抽水植物 <sup>1)</sup>
原産	南米 <sup>1)</sup>
見分け方	水面より上まで茎をのばす 鳥の羽のような形で白色を帯びた緑青色（ろくしょういろ）の葉が1節に5～6枚ずつつく
繁殖生態	雌雄異株で、日本に野生化しているのは雌株のみ <sup>1)</sup> 栄養繁殖が旺盛で、ばらばらになった茎から葉や根を出して再生 <sup>7)</sup>
耐寒性	茎は低温に強く <sup>4)</sup> 、冬は特殊な殖芽を形成せず、そのままの状態越冬 <sup>1)</sup>
その他	水生雑草が少ない場所では出現率が増加するが、他種との競争に弱い <sup>5)</sup> 穏やかな開放水面を好み <sup>6)</sup> 、水深が30cm以内のところで生育

## ■ 見分け方

オオフサモの同定については「特定外来生物 同定マニュアル」<sup>7)</sup>、「福岡県 侵略的外来種 防除マニュアル 2021」<sup>8)</sup>、「長野県版 外来種対策ハンドブック～みんなで守る信州の自然～」<sup>9)</sup>を参考にされたい。間違いやすい主な植物はタチモ、ホザキノフサモ、フサモ、オグラノフサモ、キクモ、ハゴロモモである。

見分け方のポイントは以下の通りである。

- ★ 水面より上まで茎をのぼす (写真①)
- ★ 鳥の羽のような形で白色を帯びた緑青色の葉が1節に5～6枚ずつつく (写真②③)



写真①



写真②



写真③

## ■ 分布情報

国立環境研究所 侵入生物データベース<sup>10)</sup>によると、オオフサモの分布（令和5年1月時点）は以下のようになっている。



図 17 オオフサモの侵入地域

(必ずしも色が塗られた地域全体に分布するわけではない)

国土交通省等が実施する「河川水辺の国勢調査」では、河川における生物調査の中で植物調査を行っており、「河川水辺の国勢調査結果の概要〔河川版〕（生物調査編）」の「3.植物調査」<sup>11)</sup>で一級河川における一部の種の植物の生育状況を知ることができる。以下は平成28年度～令和2年度の植物調査でオオフサモが確認された河川である。

なお、「河川水辺の国勢調査結果の概要〔河川版〕（生物調査編）」では、年度ごとの分布情報が公表されるため、最新の情報を確認されたい。

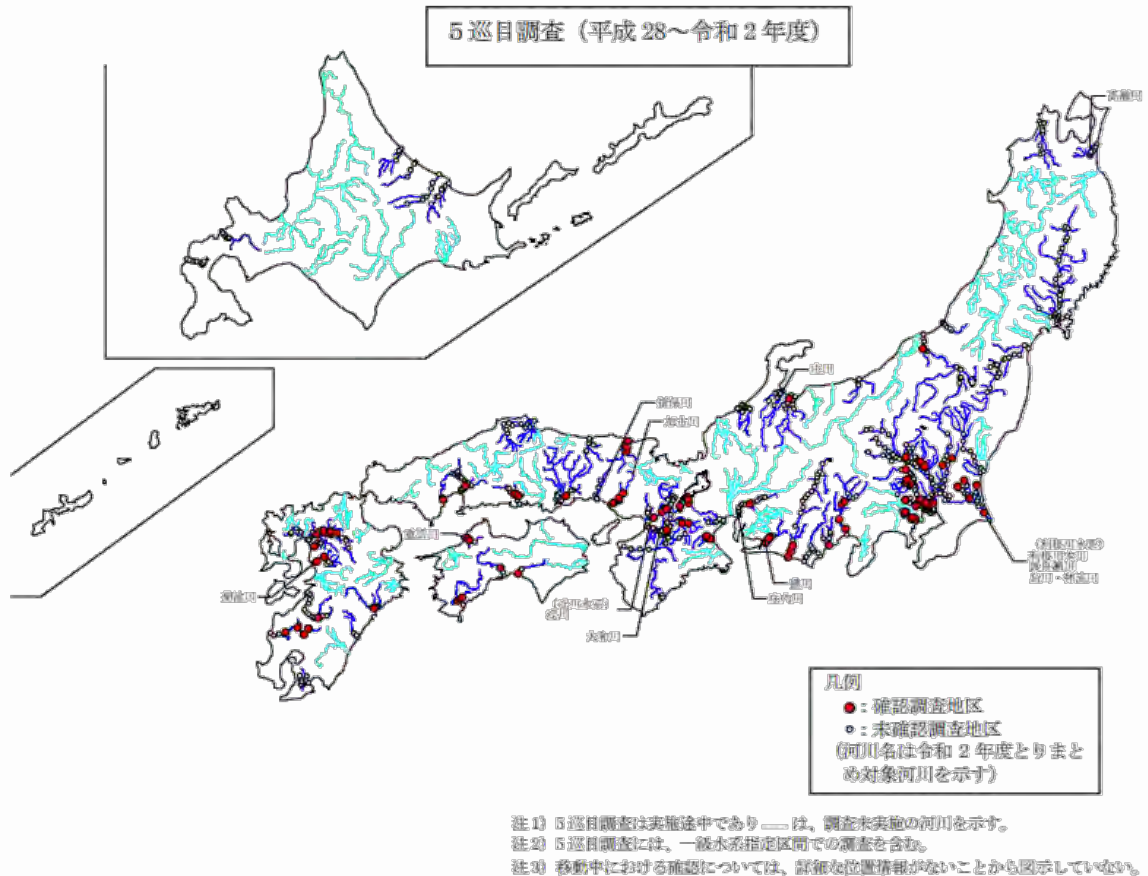


図18 オオフサモが確認された河川

(令和2年度 河川水辺の国勢調査結果の概要〔河川版〕（生物調査編）<sup>11)</sup>より引用)  
 (<http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukokuweb/gaiyou.htm>)

また、河川水辺の国勢調査の結果を集約している「河川環境データベース」<sup>12)</sup>を令和5年1月に確認した結果、過去の調査から1回以上オオフサモが確認されている水系及びダムは以下の通りである。

表 11 オオフサモが確認されている水系

地方	水系	地方	水系
関東地方	利根川	中国地方	江の川
	荒川		佐波川
	久慈川		小瀬川
	多摩川		太田川
	鶴見川		芦田川
	富士川		吉井川
北陸地方	阿賀野川		斐伊川
	常願寺川		高津川
	神通川		高梁川
中部地方	木曾川	四国地方	旭川
	天竜川		吉野川
	矢作川		重信川
	大井川		肱川
	庄内川		仁淀川
	狩野川		渡川
	安倍川		那賀川
	豊川		物部川
	鈴鹿川		土器川
	雲出川		川内川
近畿地方	菊川		緑川
	淀川		筑後川
	大和川		山国川
	加古川		松浦川
	由良川		菊池川
	円山川		嘉瀬川
	北川	九州地方	遠賀川
		本明川	
		矢部川	
		白川	
		球磨川	
		肝属川	
		大淀川	
		五ヶ瀬川	
		大分川	



表 12 オオフサモが確認されているダム

地方	水系	ダム名	地方	水系	ダム名
関東地方	利根川	渡良瀬遊水地	四国地方	肱川	野村
近畿地方	淀川	天ヶ瀬		渡川	中筋川
		日吉	-	巨勢川調整池	
中国地方	小瀬川	弥栄	九州地方	川内川	鶴田

### 3.1.2 被害状況

#### 【概要】

侵入先は水路、ため池で通水障害や除塵機の詰まり等を引き起こす<sup>13)</sup><sup>14)</sup>。

オオフサモは水の流れの緩やかなところを好むため、流速の遅い水路やため池でよく生育し、ときに水面を覆うほど繁茂する。過剰に繁茂すると水の流れを阻害し、大雨時には排水を妨げ水をあふれさせたり<sup>13)</sup>、流下した大量の植物体が除塵機に詰まり施設機能を低下・停止させたり<sup>14)</sup>する被害を引き起こす。

ため池の水面にマット状に繁茂した事例<sup>15)</sup>（写真①）、水門を覆いつくし、ゲートが開かなくなる恐れがあった事例<sup>15)</sup>（写真②）、小排水路と支線排水路の合流点に集積し、水があふれた結果、周辺の畦畔が崩れた事例<sup>15)</sup>（写真③）、水田横の排水路を一面に覆った事例<sup>15)</sup>（写真④）、等がある。



写真①



写真②



写真③



写真④

図 19 オオフサモの主な被害状況